

美悠久・夢無辺

# 絹谷 幸二展



五穀豊穰芽生へ(大気津比売神)

181.8cm×227.3cm



日本武尊 富嶽朝陽船出

181.8cm×227.3cm



金銀雲上朝光富士

22.0cm×27.3cm



黄金背景健康薔薇

22.0cm×27.3cm

アフレスコ画の第一人者、絹谷幸二氏の新作個展です。通常フレスコ画と言ひ、壁に漆喰を塗り、乾かない間に顔料で描く技法。スピードと高い技術が要求され、ルネサンス期に盛んに描かれ、システーナ礼拝堂天井画のミケランジェロ『最後の審判』が知られています。絹谷氏は東京藝術大学終了後イタリアで学び、イタリア流のアフレスコ画と称しています。

さらに伝統的な岩絵具や金箔など日本画材を取り入れることで、独自のアフレスコ画を生み出し、高い評価と絶大な人気を博しています。とりわけ明るく情熱を帯びた赤、深く瞑想する青など、生命感溢れ哲学を秘めた色彩と、ユーモアや人間性に満ちたエネルギッシュな造形が生きる喜びを感じさせ、人々を勇気づけてきました。

今回の新作個展は、「古事記」にもとづく神話をテーマとした大作や富士、薔薇、龍、ヴェネツィアなど、氏が長く追求してきたテーマの大作から小品まで約60点。神話シリーズは、奈良出身の絹谷氏らしいテーマです。ほぼ同時期に奈良県立美術館でも同テーマの「絹谷幸二～豊穰なるイメージ～」を開催(10月20日～12月16日)。

絹谷氏は1943年生まれ。1974年に「安井賞」を当時最年少で受賞、2001年日本藝術院会員となる。東京藝術大学教授として長い間、後進の指導に尽力(現在は名誉教授)、2009年、若手画家を応援する「絹谷幸二賞」を創設しています。

また2004年の高島屋日本橋店リニューアルオープン時のビジュアルイメージの原画を描いていただくなど高島屋との繋がりも深く、高島屋での個展も1985年以来、多くを数えます。エネルギッシュ、ユニークで煌びやか、おおらかで眼差しの大きな……、こんな時代だからこそ、一層望まれる作品です。